

製品名: MYL3 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80736**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	MYL3
別名	CMH8; VLC1; MLC1V; MLC1SB
遺伝子 ID	4634.0
SwissProt ID	P08590
免疫原	大腸菌で発現した MYL3 の精製された組み換え断片。

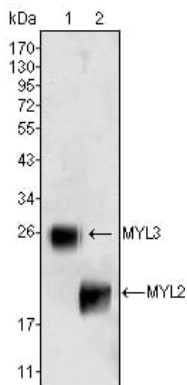
背景

ミオシンは、アクチンフィラメントに沿って運動しながら ATP を加水分解する、大規模なモータータンパク質スーパーファミリーです。ミオシンは太い筋フィラメントの主成分で、球状の頭部と長い尾部を持つ非対称な長い分子です。この分子は 2 つの重鎖と 4 つ

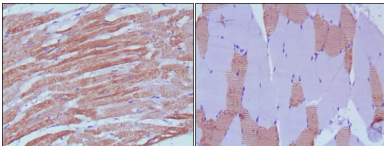
の軽鎖から構成されます。平滑筋と心筋の活性化には、主にカルシウムとミオシンのリン酸化を増加させて収縮を引き起こす経路が関与しています。ミオシン軽鎖ホスファターゼは、活性化ミオシン軽鎖を脱リン酸化することで、筋収縮を制御します。MYL3は、文献では心室アイソフォームおよび骨格筋遅筋アイソフォームとも呼ばれるアルカリ軽鎖であるミオシン軽鎖 3 をコードしています。ヒトミオシン軽鎖は、心臓マーカーとして臨床応用されています。MYL3 の変異は、中左室腔型肥大型心筋症の原因として特定されています。

研究分野

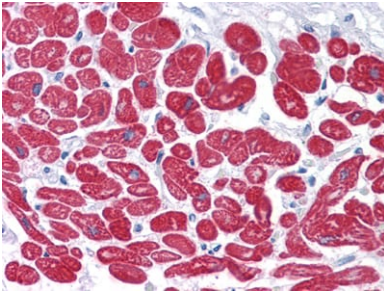
画像データ



ラット胎児心臓組織溶解物に対する MYL3 (1) および MYL2 (2) マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



DAB 染色による MYL3 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト骨格筋(左)と心筋(右)の免疫組織化学分析。



MYL3 マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学分析。